

219-1953

日本組織培養学会
平成6年9月30日

会員通信
第82号

発行責任者
※宇田川康博（慶應大医学部）
佐藤 靖史（大分医科大学）
増井 徹（京都大医学部）
※〒160 東京都新宿区信濃町35
慶應大学医学部産婦人科
電話 03-3353-1211 内2386
Fax 03-3226-1667



§ 第9回日本組織培養学会秋期公開シンポジウム案内

最近の研究により、種々の外的因子による細胞死がアポトーシスの過程を経ること、そしてその経路には複数のシグナル伝達系が関与することが明らかになってきた。そこで本年度の秋季シンポジウムは、進展著しいアポトーシス研究の現状を紹介することを目的として、下記のようなプログラムを組みました。本学会員、非学会員を問わず、多数の参加を歓迎いたします。

世話人 鈴木 文男

テーマ アポトーシス研究の新展開
開催日 1994年11月12日（土曜日）午後1時～午後5時
会場 金沢大学薬学部講堂（金沢市宝町13番1号）
参加費 無料

プログラム

日本組織培養学会会長挨拶 蔵本 博行（北里大学医学部）

1. プログラムされた細胞死としてのアポトーシス
座長 二階堂 修（金沢大学薬学部）

1-1 アポトーシス概論 - 胸腺細胞を例として -
山田 武（東邦大学医学部）

1-2 アポトーシスとDNA断片化 田沼 靖一（東京理科大学薬学部）

2. 生体適応反応としてのアポトーシス 座長 鈴木 文男（金沢大学薬学部）

2-1 ウイルス感染による宿主細胞のアポトーシス誘導機構

中西 義信（金沢大学薬学部）

2-2 ウイルス感染とアポトーシス - A I D S の発症を中心として -

小林 信之（山口大学医学部）

3. アポトーシスの分子機構

座長 山田 武（東邦大学医学部）

3-1 *bcl-2*によるアポトーシスの制御

辻本 賀英（大阪大学医学部）

3-2 Fas リガンドとFas;a death factor and its receptor

長田 重一（大阪バイオサイエンス研究所）

終了後、小懇親会を開催いたします（無料）。多数ご参加下さい。

連絡先：〒920 金沢市宝町13番1号

金沢大学薬学部放射薬品化学教室 鈴木 文男

Tel. 0762-62-8151（内線6442） Fax. 0762-24-5197

（JR金沢駅から会場までの交通案内）

バス利用：北陸鉄道バス

駅前10および11番乗り場（東部車庫、女子大学、湯桶温泉行き）

小立野（こだつの）下車（約25分）、徒歩2～3分

タクシー利用：約15分

金沢大学はキャンパスが3ヶ所に分かれていますので、くれぐれもご注意ください。

薬学部は医学部・大学病院と同じ宝町キャンパスにあり、正門を入れて最も右奥に位置しています。

§ 平成7年度日本組織培養学会細胞工学シポジウム案内

シポジウム仮題：細胞間の相互作用

日時：1995年1月20日（金）

場所：持田製薬株式会社ルークホール（東京）

以上の予定でシポジウムを開催したいと考えております。会員皆様の御協力と御参加をお願いします。

細胞工学委員会委員長 小山 秀機

§ 第68回日本組織培養学会大会案内

第68回日本組織培養学会を下記の予定で開催しますので、奮ってご参加ください。今回は、一般講演に力を注ぎ、この学会が研究会であったころの初心に帰って各人の講演と討論時間をできるかぎり長く取れるように学会運営を設定したいと思います。演題募集の際には、会員各位の積極的な話題提供をお願いします。なお、全く同じ時期に長崎で2,000名規模の神経内科学会が開催されます。長崎は、観光地でありながら宿泊ベット提供能力が極端に少ないので、早めに予約されることをお勧めします。下記、日本旅行長崎支店に申し込まれますと学会特別価格で提供してもらえます。

期 間 平成7年5月17日(水)～19日(金)
予 定 5月17日 シンポジウム
植物と動物を分けるのはなにか?(仮題)
5月18～19日 一般演題
下記の演題を特別に募集します。
1. 生体ストレス反応
2. 機能発現培養
3. 遺伝子発現調節
4. 細胞周期

場 所 長崎厚生年金会館
大会事務局 長崎大学薬学部放射薬品学
長崎市文教町1-14
大会専用電話およびファクシミリ 0958-44-5504
世 話 人 渡邊 正己
事務担当 奥 喜美子
宿 泊 案 内 日本旅行長崎支店 担当 木津 好洋
電話 0958-26-9307 ファクシミリ 0958-25-8552

§ 平成6年度日本組織培養学会奨励賞を受賞して

生命工学工業技術研究所 レヌー・ワダワ

I express my deep gratitude to the Japanese Tissue Culture Society for the encouragement extended to me in the form of awarding Young Scientist Award. It is a pleasant coincidence that the work on the 66-kDa protein, mortalin, a novel senescence induced member of hsp 70 family, presented at the 66th Annual Meeting of JTC Society was selected for the award. It has become apparent

that besides its identification as a mortality marker, mortalin distinguishes normal and immortal cells by virtue of its differential intracellular distribution. Introduction of the cDNA encoding for the cytosolic form (isolated from normal mortal cells) to NIH 3T3 cells induced cellular senescence whereas the microinjection of antibody to senesced MEF cells induced them to divide transiently. Further the protein seems to have different intracellular locations in the members of four complementation groups of immortality. Mortalin thus can be exploited as a identifying marker for immortality as well as complementation groups.

I like to add that the international symposium on cellular senescence organized by the society during 66th and 67th meetings were equivalent to the award itself where there was a lot of opportunity to interact with established scientists of the field and communicate beyond the limits of formality. I congratulate the organizers for the success of these symposium. I also would like to take opportunity to thank my collaborations Dr. Y. Mitsui, Dr. Sunil C. Kaul and Dr. Y. Sugimoto while expressing thanks to the JTC Society.

松浦 知和（東京慈恵会医科大学第一内科）

内科学という臨床系のわたくしどもの研究が、今回歴史ある日本組織培養学会奨励賞をいただき評価を受けることができたことは、光栄でありこのうえもなくうれしいことであります。わたくしどもの研究は、なぜそしてどのようにしてビタミンAが肝臓に蓄えられるか、というおおよそ臨床の者が研究するには地味なテーマを対象としてまいりました。しかし、この研究テーマは肝臓の伊東細胞の発見者である伊東教授以来、多くの若い日本人研究者が世代を代えながら取り組んできたテーマでもあります。研究内容も解剖学、生化学、細胞生物学と多岐の分野にわたり、今後は分子生物学にも広がっていくものと思われます。また、最近ビタミンAの分野でもレチノイン酸の核内レセプターが発見されその機能が明確にされてきており、種々のビタミンA製剤が開発されようとしています。生体全体の中でのビタミンA代謝に臨床側からも目を向けなければならない時がとおからずやってくると信じ、今後も研究を続けて行くとともにです。

S 組織培養研究 (TCRC) への投稿論文募集のお知らせ

組織培養研究 (TCRC) の編集方針の大幅改革を行ってから3年が経過しようとしております。以前は不定期に発行されていた学会誌が、ほぼ予定通り年4回発行できる体制になりました。これまでも組織培養学会年会や秋期シンポジウムで発表されたすぐれた口演の総説等を中心に論文掲載を行ってきました。オリジナル論文についても、審査体制の完備にともない、論文受理後審査終了までほぼ3ヶ月以内に完了できるまでになりました。

今後、組織培養研究が広く会員から注目され、学会誌としての本来の使命を果たすためにも会員諸先生方のますますのご支援をお願いしたいと存じます。

前述しましたように、以前に比べて発行回数が増加したため、特に速報性の必要なオリジナル論文等の発表の場として最適のジャーナルと考えております。もちろん、通常のオリジナル論文、目まぐるしく発展する重要研究分野のトピックスやミニレビュー等も大歓迎です。会員一人一人の情報交換の場として、組織培養研究をますます利用していただき、ふるって論文投稿していただけることをお待ちしております。

組織培養研究 編集委員長 星 宏良

S 第4次細胞バンク委員会より

第3次細胞バンク委員会に引き続き、第4次細胞バンク委員会（平成6、7年度）の設置が、この度の学会総会で認められました。活動は第3次細胞バンク委員会の方針をそのまま引き継ぎ以下の予定です。

1. 「わが国における培養細胞の保存供給体制整備に関する要望書」についての今後の活動の具体化
2. 細胞株の所有権および細胞使用上の倫理問題について…その後
3. フィンガープリティングによる細胞同定法の有用性に関する検討
4. ウイルス汚染検出法の検討
5. 画像を含めた細胞株データベースシステムの構築
…ネットワーキング体制の検討

メンバーは第3次と同じで、委員長が大野忠夫（理化学研究所）、委員は、梅田誠（横浜市大本部）、川村杉生（工技院生命研）、工藤俊雄（東北大加齢医学研）、佐藤敬喜（第一製薬）、竹内昌男（発酵研、書記）、田中憲穂（食品薬品安全研）、難波正義（岡山大分子細胞研）、浜口和之（アルメイダ病院）、星宏良（機能性ペプチド研）、松村外志張（明治乳業）、水沢博（国立衛生試験所）。他にオブザーバーとして松尾良信（林原生物化学研）です。第1回の会合は9月30日、金沢で秋のシンポジウムの前日に開きます。

理科学研究所ジーンバンク 大野 忠夫

§ 若い会員が増えることを期待して

会長 蔵本 博行

私共の日本組織培養学会がスタートした当初、幹事の定年は40歳だったと聞いております。若い、新進気鋭で、aggressive な培養研究者が、活動の牽引車となって、本学会を発展させて来たのは偽りのない事実です。自らの頭脳と行動力を駆使して、研究活動を本当にactiveに行っているのは、30歳代を中心とする若い研究者である、との認識から始まったことと先輩から伺っています。その主旨は、現在でも、幹事の半数が40歳未満の会員から選出される規約になっていることで生かされています。

昨年度末に、2年毎に発行する会員名簿が、会員の皆様方に届けられたかと存じます。御存知のように、氏名の先頭に○印の付されている会員は、40歳以上であることを示しています。この名簿を見て気付いたことは、何と○印の無い会員が少ないことかと云うことでした。

以前の新進気鋭の会員が、多数、功なり名を遂げられて、それぞれに学問の世界で重鎮となっておられることも事実であります。が、現在の会員の年齢構成を見る時、本学会の未来像に、いささかの暗雲が停滞していると感じるのは私ばかりでしょうか。

どうぞ、会員の皆様方には、研究室内あるいは近隣の若い培養研究者の方々に、日本組織培養学会の有用性を力説して、入会をお勧め下さるようお願い致します。

そして、これまでのように、日本組織培養学会が、若い研究者が中心となった先進的な研究発表と活発な討議の場となるよう期待しております。

§ 編集後記

日本組織培養学会会員通信82号をお届けします。記録的な猛暑と異常渇水となった今年の夏、断水に見舞われ研究に支障を来した研究室もあったのではないかと心配いたしました。が如何でしたでしょうか。

今回も、前回と同様に学会誌に同封してお届けしました。今後とも、この方式を続けることとなりますので御了承願います。

(Y. S.)

平成6年3月から平成6年6月末まで
(8月末日現在)
(*印は発送先です)

§ 新入会員

氏 名	現 住 所	所属機関・所在地
木 村 幹 夫	〒679-23 兵庫県神戸郡市川町西田中 21-2 ☎0790-26-1786	国際試薬㈱ *〒651-22 神戸市西区室谷 1-1-2 ☎078-991-2212
原 澤 亮	〒121 足立区六月 3-9-12 ☎03-3860-7041	東京大学医学部附属動物実験施設 *〒113 文京区本郷 7-3-1 ☎03-3816-5680
湯 浅 智 恵	*〒771-43 徳島県勝浦郡勝浦町大字沼江 字田中 46 ☎08854-2-3304	大鵬薬品工業㈱製薬センター-化学療法剤研究所 〒771-01 徳島市川内町平石夷野 224-2 ☎0886-65-3570
本 合 幹	*〒626 宮津市字宮村 1281-1 ☎0772-25-2053	京都府立医科大学眼科学教室 〒602 京都市上京区河原町通広小路上ル 堀井町 465 ☎075-251-5578
田 辺 秀 之	〒158 世田谷区玉川台 2-29-9 細川荘 202 ☎03-3707-6537	国立衛生試験所変異遺伝部細胞バンク *〒158 世田谷区上用賀 1-18-1 ☎03-3700-1141
中 川 豊	〒913 福井県坂井郡三国町緑ヶ丘 4-23-20 小野薬品三国寮 ☎0776-82-7683	小野薬品工業㈱福井安全性研究所 *〒913 福井県坂井郡三国町山岸 50-10 ☎0776-82-6161
荒 田 悟	〒153 目黒区中目黒 3-11-10 ☎03-3710-6912	昭和大学薬学部微生物学教室 *〒142 品川区旗ノ台 1-5-8 ☎03-3784-8209
黒 川 弘 子	*〒228 相模原市相模大野 4-5-3-810 ☎0427-45-4570	北里大学医学部産婦人科 〒228 相模原市北里 1-15-1 ☎0427-78-8111
辻 井 篤	*〒216 川崎市宮前区宮前平 2-17-1 宮前平サンハイツ 407 ☎044-855-5500	北里大学医学部 〒228 相模原市北里 1-15-1 ☎0427-78-8414
米 沢 由 美 子	〒174 板橋区前野町 6-10-3-403 ☎03-3969-8616	東京都老人総合研究所実験生物学部 *〒173 板橋区栄町 35-2 ☎03-3964-3241
平 嗣 良	〒 ☎	グンゼ㈱京都研究所 *〒623 綾部市井倉新町石風呂 1 ☎0773-42-0141

氏 名	現 住 所	所屬機関・所在地
諸 田 勝 保 千	〒	グンゼ(株)京都研究所 *〒623 綾部市井倉新町石風呂 1 ☎0773-42-0141
山 口 聡 千170	豊島区南大塚 3-3-6-401 ☎03-3985-5615	東京医科歯科大学歯学部第一口腔外科学 講座 *〒113 文京区湯島 1-5-45 ☎03-3813-6111
西 一 也 千700	岡山市春日町 5-31 不二興ビル 407 ☎086-232-1863	岡山大学歯学部予防歯科学講座 *〒700 岡山市鹿田町 2-5-1 ☎086-223-7151